

3 中部国際空港の二本目滑走路を始めとする機能強化の実現について

(国土交通省)

【内容】

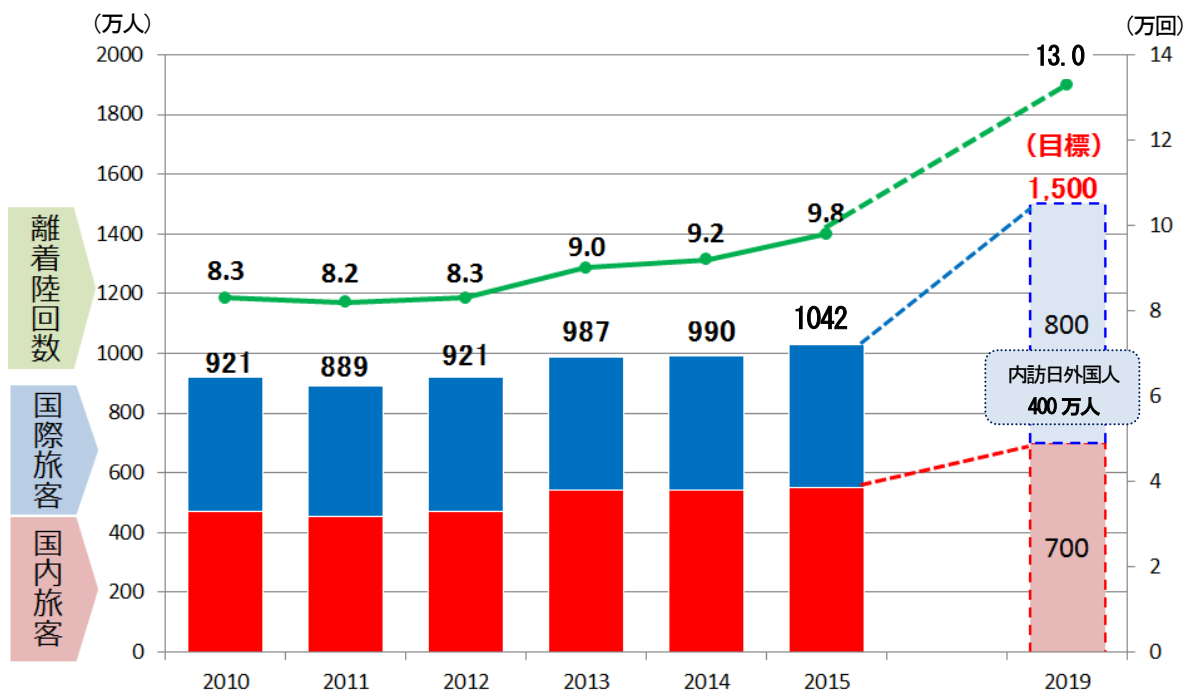
- (1) 中部国際空港の機能強化、特に二本目滑走路の実現に向けて、国が主体となって必要な調査検討に取り組むこと。
- (2) ビジット・ジャパン地方連携事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。
- (3) 急増する訪日外国人の受入に適切に対応するため、C I Q体制の充実・強化に取り組むこと。
- (4) 空港利用者の利便性向上のため、道路・鉄道等アクセスの充実に取り組むこと。

(背景)

- 中部国際空港は、開港以来、成田国際空港、関西国際空港と並ぶ国際拠点空港として、我が国の航空輸送の発展の一翼を担っており、国内外の人・モノの交流に大きく貢献してきた。
- 国においては、直面する人口減少社会に歯止めをかけ、首都圏への一極集中の弊害を是正していくこと、それに並行して地方創生を進めていくことを国土づくりの重要な課題に掲げられており、中部圏、特に東海3県では、首都圏に負けない定住圏形成を目指し、「モノづくり」基盤の一層の充実を図るとともに、医療・教育・観光基盤の整備に全力を挙げている。
- とりわけ、観光分野において、国は、訪日外国人旅行者数について、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される2020年には4,000万人、2030年には6,000万人という新しい目標を掲げた。
- 中部国際空港としては、2019年度までに、訪日外国人数400万人を含む旅客数1,500万人、国際航空貨物取扱量24万トンの達成を目指し、これに向け、LCC（格安航空会社）を主なターゲットとする新ターミナルビル建設や駐機場の整備等を実施することとしている。
- 地元としても、国と連携・協力しながら、航空需要の拡大・航空ネットワークの充実に向けたエアポートセールスや昇龍道プロジェクトの推進等を行うとともに、訪日意欲が旺盛な中国や東南アジア諸国を始めとした訪日外国人の受入の拡大に向けて、情報提供サービスの充実、出入国手続の迅速化・円滑化等に取り組んでいる。
- また、貨物便の増便・新規就航の働きかけ、中部圏の強みである航空関連部品等にかかる貨物需要の取込み、利用者ニーズを的確に踏まえた集荷・保管機能の強化等にも、取り組んでいる。近年、中部国際空港では、中国を始めとする新規路線の就航が拡大しており、今後のLCCの拠点化等を見据えると、旅客数や離着陸回数的大幅な伸びが予測されるとともに、24時間運用の利点を生かした深夜早朝時間帯の就航が相次いでいることから、これまで深夜早朝時間帯に行っていた滑走路のメンテナンスを行う時間を確保することが困難になってきている。
- また、リニア中央新幹線の全線開通による巨大都市圏の誕生という大きなインパクトの活用や国の中枢機能の分担等を確実に担うためには、我が国の国際ゲートウェイの一翼を担う中部国際空港の二本目滑走路（完全24時間化）を始めとする機能強化の早期実現が不可欠である。
- 加えて、新たな道路アクセスとなる西知多道路について、今年度、新規事業化されたところであるが、空港利用者の利便性の向上のためには、道路・鉄道等アクセスのさらなる充実が必要である。

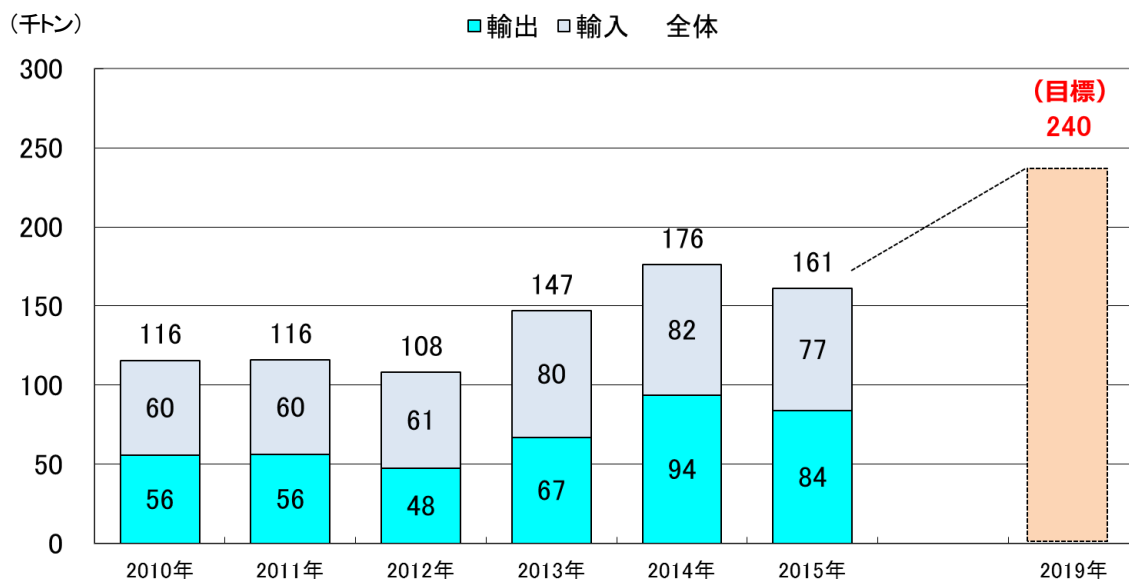
(参 考)

【中部国際空港の旅客数・離着陸回数の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【中部国際空港の国際航空貨物取扱量の年度別推移】



中部国際空港株式会社作成資料を基に作成

【航空需要拡大に向けた地域の実施状況】

愛知県	訪日外客誘致に向けたプロモーションと受入態勢の強化 海外でエアポートセールス等を実施 教育旅行における航空機利用の促進を実施
中部国際空港 利用促進協議会	ファミトリップ (旅行商品造成を目的とした海外旅行事業者等の招聘事業) など、 インバウンド需要の拡大事業の実施 広域観光周遊ルート形成促進など、受入環境整備事業を実施 輸出入貨物を増やした荷主・フォワーダーへの支援やトラック共同輸送事業の実施 エアラインのPR支援や就航先でのプロモーションの実施